

アフリカ日食における新星発見さわぎ

秦 茂

この裏話をつけ加えようと思った理由の一つは、或る時誰かに聞かれた質問の一つ「アマチュアが撮った日食写真が本当に役に立つか」という問いかけに答えたいと思ったからである。或る天文雑誌に次のような記事が載ったことがあった。

“6月30日（1973年）にアフリカ大陸を横断しておこった日食で、ベルギー隊が -2 等星の新星らしきものを発見したと報じたが、日食観測に参加した木村精二氏、藤森賢一氏の写真を東京天文台の天体掃索部で調査した結果、同位置に新星はないと断定した”

7月12日付IAU（国際天文連盟）サーキュラーに次のようなニュースが載った。ケニヤで日食観測を行っていたベルギー隊の20枚の写真から -2.0 等の新天体が発見されたという内容である。しかし日本からのアマチュア観測団は、どうもこの新天体を目撃していないらしいのである。

私は早速、アフリカから戻って来たばかりの木村精二氏に連絡して見た。「成可く広角で日食の状況を撮影したフィルムが見たい」という頼みに藤森氏の標準レンズ露出7秒、木村氏の1秒露出写真の2枚が東京天文台に送られて来た。

天体掃索部の香西洋樹氏と私は、東京天文台南研の暗室で、早速このフィルムを引伸器にか

けて、長い間相当する新天体を探がし求めた。

しかし電報による α (赤経) $6^{\text{h}}52^{\text{m}}0$ 、 δ (赤緯) $+5^{\circ}21'$ の位置には、 -2.0 等などという明るい天体は撮影されていないのである。早速、天文台から写真測定の結果、3 等以上の天体は見付からない旨の電報を SAO (スミソニアン) あてに打電し、7 月 31 日付の IAU サーキュラーで、この新天体ははっきりと否定されたのである。

日食観測のテーマの一つとして新天体の発見という項目も含まれているが、このような新天体の否定も、新天体の発見と同様に重要なことなのである。天文学が一つ一つの観測の積み重ねであることを理解されるならば、この標準レンズによる一枚の 35 ミリ・フィルムからのデータがどんなに大切なものかお分かりいただけると思う。

木村氏の 35 ミリ・フィルムは実は全く別途の観測計画の一つとして撮影されたものであるが、これについてはいづれ外の機会に説明することにした。